

事業名称	観光地の集团的孤立を防ぐエリアミュージアムネットワーキングプロジェクト
団体名・代表者	特定非営利活動法人スローソサエティ協会 理事長 米谷啓和
協働の相手方	観光経済局観光コンベンション室

目的	2大観光地である姫路城と書寫山を有機的に結び、その周辺の施設や道、商店等との関連性を高め、多様な姫路滞在方法を提案することで、観光客がただ観て帰るだけのThe観光地ではない、姫路の人々の暮らし・歴史・偏愛を垣間見る解像度の高い観光のかたちを生み出す。
内容	①姫路城エリアのまるごとミュージアムマップの作成 the観光地といわれる施設とその周辺にある野里や城の西エリアの小さなモノや五感で感じるコトなどを落とし込んだ、歴史とアートの極私的マップを作った。 ②姫路城エリアと書寫エリアをつなぐルートづくり 姫路駅・姫路城から書寫山へ自転車で向かった場合の、安全で楽しい道を探った。バスや車では目に留まらないような小さな出会いを楽しめるものにした。 ③書寫山グリーンウォーキング 森の案内人である三浦豊さんと一緒に木々の解説を聞きながらウォーキングをすることで新たな魅力に出会った。 ④エリアネットワーク観光の情報発信 姫路城への観光旅行のプランニングの段階で、野里や城の西、書寫といった周辺観光エリアも訪れる計画のアシストを試みた。
事業経過	7月：自転車の正しい交通ルール講習会 9月～2月：姫路城周辺（野里・城西エリア）、書寫までのルート（安室、御立エリア）訪問、スポット洗い出し、マップに記載 11月：「グリーンウォーキング」実施、3月：エリアミュージアム冊子・マップ完成
事業の効果	これまで姫路中心部の観光マップといえば、姫路駅から姫路城をつなぐマップが多用されており、姫路城到着がゴールであった。しかし、姫路城を中心とした東西南北の歴史・アート・小商いなどの楽しい見所を散りばめた広域マップを作成したことで、旅行者が姫路城以外の素敵な場所を知り、散策するチャンスが増え、姫路滞在の時間が長くなることが期待できる。
今後の展望	自転車は自動車の代替手段であり、歩行者と同じ交通ルールではない。このような基本的な交通ルールが姫路市民には周知されていない上に、守ろうとしても、安全に通行できる自転車道の整備が追い付いていないため、危ない思いをすることがある。初めて姫路に来た人でも、自転車で姫路の街を楽しめるように、安全な自転車走行に向けた取り組みにも目を向けることが重要である。

【実施団体の事業総括・感想等】

「姫路にはぜひ泊まってみたい趣のあるホテルがない」「小さな取り組みは多様な団体が行っているが、姫路全体で連携して取り組む必要がある」と観光に携わる方々から同じような話を聞いた。一方で小さな情報はSNSで頻繁に配信することで、情報の鮮度と面白さが観光客に直接伝わる実感がある。大きな受け皿の役割と、小さな情報配信の役割をうまく連携させることが大切だと思った。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

観光マップの作成をはじめとして広域観光に寄与する事業であったと考えている。交通手段として自転車を活用することについては、良い施策だと考えている。引き続き、二次交通を含めた周遊の仕組みについては、協働して取り組んでいきたい。